

NPO法人ありんこに  
 関する詳しい情報は  
 公式ホームページ  
 arinno.sakura.ne.jp  
 にて公開中！！

# ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部  
 編集責任者 一戸 由佳  
 住所 青森県弘前市大字富栄  
 字笹崎80-1  
 電話 0172-96-2774  
 Fax 0172-55-9591



## 第7回 ありんこまつり 雨天にも関わらず大盛況のうちに終了



### 理事長のつぶやき

#### 「祭りを終えて」

「ありんこまつり」の当日は、晴天の願いもむなしく、朝から、むしろいさぎよいほどの雨であった。

雨だけなら、今年は寄付金で新しくテントも買い足しており、万全かと思われたが、想定外の寒さに見舞われて、参加できなかった方もいたようである。

それでも足元の悪い中地域や他事業所の方々、利用者様やそのご家族など、たくさんの方にお集まりいただき、雨の中、笑顔の花が咲いた祭りとなった。

会場に出店していた「スマイル/ハソス」さん。オープニング前に急きょ記録としての写真撮影をお願いし、飛び入りのボランティアのようになってしまったが、いろいろな場面を写真に収めてくださっていた。

そんな彼らの出店の方とは、雨天で寒くて暗く、屋外のテントのブースは客足もまばらで、思うような宣伝はできなかったと思う。しかし今後も「ありんこまつり」がいろいろな立場や職業の人と人とを繋ぐ場としても機能していけたらと考えている。

繋ぐと言えば、ありんこまつりのボランティアさん。やよあかの保護者たち、日産自動車の新旧担当さんの他、「いちのへ耳鼻科サポーターズ」（一戸学とゆかいな仲間たち）の皆さん、弘前大学の学生さんとともに、今年は高校生も6名参加してくれた。

若い力を巻き込んで、祭りも事業所の未来も、次の世代へと繋いでいかなければならないと感じている。

立ち上げたものを維持し、次へ。世代交代という言葉が急に頭をよぎった。

7月7日の七夕の日。雨天で寒い中にも関わらず、たくさんの方々にお越しいただき、第7回ありんこまつりを無事に終えることができました。当日お越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。

今回の祭りは、昨年の祭りの反省を受け、今年に入りいろいろな部分の変更や、新たな取り組みを加えながら準備を進めて参りました。

夏休みまでの期間の関係などで、今年は7月第1週の土曜日となりましたが、祭りの開催時期も含めて、終了後に皆さまにアンケートを取らせていただきました。皆さまには大変お手数をおかけしましたが、アンケート結果は来年の祭りに向けて、改善点を明確にするためにとても重要で、大事な資料となります。多くの方にご記入いただき、ありがとうございました。このアンケートの結果から、今年の祭りを振り返ると、いろいろなことが見えてきました。

雨天での開催は想定していたので、対応は概ね問題なくできたようでした。ただ、ボランティアや一般の方向けの駐車場が朝からの強い雨でぬかるみとなり、急きょアスファルトの駐車場に一般の方も停めることになったり、祭り終了後にボランティアの方たちがぬかるみにはまり脱出できなくなったりというトラブルがありました。来年に向けては駐車場の整備も検討する必要があります。

販売に関しては、今年初めて、昨年の反省を受けてチケット制とし、事前販売なども行いました。雨と寒さで当日の参加を取りやめた方にも、原則払い戻しは行わないことにしておりました。これに関しては特別な問題はなかったと思われませんが、チケット制が初めてだったので、品物の受け渡しの方法や当日券の販売の仕方、ブースの設置の仕方等、課題が見えてきました。雨でスペースが限られた部分もあり、当日の受け渡しコーナーでは長蛇の列ができ、20分以上並ばれた方もいたようでした。また、前売り券を事前に購入していたのに、引き換えに行ったら商品が売り切れてしまっていて返金対応になったものもあったようです。

チケット制の良さも見えてきたので、来年度もチケット制の継続を検討し、その上で今回の反省を踏まえて、皆さまに楽しんでいただけるようにして参ります。

ステージイベントの内容については、いろいろなご意見が出ました。ここ数年毎年恒例になりつつある音楽イベントですが、楽しみにしている方がいる一方で、会場のみんが参加しながらみんなで楽しめるようなものが良いといったご意見もありました。雨天時は狭い屋内開催となるため、ステージと客席が近く、音量の問題などのご意見もいただきました。

縁日に関しては、障害のあるなしに関わらず、出来るだけ皆さんに楽しんでいただけるように工夫して準備を進めることができていると思います。当日は多くの方に足を止めていただき、大盛況でした。スペース的に限られた中で、臨機応変に対応できていたと思います。

接客も、食品のプレnder加工の対応や、ご家族が離れる場合のお子さんたちの見守りなど、想定されていたお手伝いに関してはほぼ対応できており、今回の来客数に対しては十分な配置だったと考えます。昨年手薄な部分だったので、ゆとりを持って対応ができていたと思います。

このようにいろいろな貴重なご意見をいただきましたので、来年度、一つ一つ丁寧に検討を重ねて、皆さまに満足していただける祭りを目指していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



### 暑中見舞いのおたより



青森県も梅雨明けが伝えられ、いよいよ夏本番ですね。毎年ありんこややよいのあかりから、夏のお便りが皆さまのもとに届くと思います。先日職員が郵便局にハガキを買いに行ったところ、かもめーるは、今年、現金賞1万円が当たるとのこと。現金なのね〜。と、驚きました。抽選は9月3日。景品の交換は9月4日から来年の3月4日までだそうです。

お手元に届きましたら、ぜひ9月3日にはお確かめください。皆さまに良いことがありますように (^\_^)



若い力を巻き込んで、祭りも事業所の未来も、次の世代へと繋いでいかなければならないと感じている。

立ち上げたものを維持し、次へ。世代交代という言葉が急に頭をよぎった。